

授業科目名	音楽科教育法Ⅱ	教員名	日高 まり子	免許・資格との関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号	SID312	配当年次	3年前期	卒業要件	小幼コース	選択必修
単位数	2単位				幼保コース	選択
科目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法					
科目						
系						
一般目標	<p>小学校音楽科教育の目標、指導内容、教材、指導計画、指導方法について適切に情報を集め、しっかり考え、指導案作成、模擬授業を行うことによって、指導力、コミュニケーション能力を培い、礼節、人間尊重の精神を他者に伝えてゆく教職実践能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>(1) 音楽科の目標及び内容 学習指導要領に示された音楽科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2) 音楽科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1) 音楽科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導要領における音楽科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</li> <li>2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</li> <li>3) 音楽科の学習評価の考え方を理解している。</li> <li>4) 音楽科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</li> </ol> <p>(2) 音楽科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</li> <li>2) 音楽科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</li> <li>3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</li> <li>4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</li> </ol>					
授業の概要	<p>音楽科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された音楽科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>日本の音楽教育の歴史の変遷を把握し、「音楽科教育法Ⅰ」で習得した文部科学省小学校学習指導要領音楽編における音楽指導の内容、意義、目的、目標、指導法、評価法の知識に基づき、児童の音楽表現力を引き出す指導者としての技術の習得、並びに授業づくりの基礎能力を養うことを目的とする。具体的には、指導計画の立て方を研究し、模擬授業の実施を通して批判的に意見交換を行い、小学校音楽指導内容をさらに把握し指導力を培う。授業形態は演習とする。アクティブラーニングにより、グループで指導案を作成し、模擬授業を実施する。授業形態は演習とする。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業計画	第1回：オリエンテーションにて、持ち物（五線ノート、A4ファイル）、テキストを確認し、この講義の内容・評価について理解する。明治維新以降の西洋文化の移入に伴う日本の音楽教育の歴史について唱歌を例にして学習する。（目標(1)-1), 2))					

	<p>第2回：小学校学習指導要領音楽編の歴史の変遷、現在の音楽教育の実情、問題点を把握する。(目標(1)-1))</p> <p>第3回：「歌唱」について、独唱・合唱における発声、階名唱、表現の指導法を学ぶ。(目標(1)-2), 3), 4))</p> <p>第4回：「器楽」について、独奏・合奏における各楽器の演奏法の基礎とその指導法を学ぶ。(目標(1)-2), 3), 4))</p> <p>第5回：「音楽づくり」について、低学年の遊びから派生した即興的な表現活動の実践例を参考にその指導法を学ぶ。(目標(1)-2), 3), 4))</p> <p>第6回：模擬授業① 指導案の作成方法について、題材設定と、授業展開の基礎について学習し、授業例として実際の小学校の音楽授業を視聴し到達目標をイメージする。(目標(2)-1))</p> <p>第7回：模擬授業② 指導教員が「鑑賞」の指導案に基づく授業を実施し、学生は児童としてその授業を受ける。その後学生は各自宮崎県教育研修センターの指導案のフォームに従って題材、目標、教材を選び、指導観、本時の目標、指導過程を計画する(目標(2)-1), 2), 3))</p> <p>第8回：模擬授業③ 宮崎県の指導案のフォームに従って指導案作成の演習を実施し、教員による添削を重ね、授業外学習によって完成させ、第一次指導案とする。次回の模擬授業実施者は授業研究をし、指導案を人数分印刷し、教具等の準備をする。(目標(2)-1), 2), 3))</p> <p>第9回：模擬授業④ 各自が作成した指導案に基づき模擬授業を実施しその授業について批判的に意見交換する。次回の実施者は授業研究をし、指導案を人数分印刷し、教具等の準備をする。(目標(2)-1), 2), 3))</p> <p>第10回：模擬授業⑤ 前回の模擬授業の反省を反映させて模擬授業を実施し、その授業について批判的に意見交換する。次回の実施者は授業研究をし、指導案を人数分印刷し、教具等の準備をする。(目標(2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>第11回：模擬授業⑥ 前回の模擬授業の反省を反映させた指導案に基づき模擬授業を実施し、その授業について批判的に意見交換する。次回の実施者は授業研究をし、指導案を人数分印刷し、教具等の準備をする。(目標(2)-1), 2), 3))</p> <p>第12回：模擬授業⑦ 前回の模擬授業の反省を反映させた指導案に基づき模擬授業を実施し、その授業について批判のみでなく、改善点も交えて意見交換する。(目標(2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>第13回：模擬授業⑧ これまでの模擬授業発表について指導案の書き方に着目し、題材、目標、教材、指導観、指導過程、板書計画などについて批判的に意見交換を行う。(目標(2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>第14回：模擬授業⑨ これまでの模擬授業発表について、導入部、展開部に着目し批判的に意見交換を行う。</p> <p>第15回：模擬授業⑩ これまでの模擬授業発表について、板書、全体的な表現力に着目し批判的に意見交換を行う。全員、指導者や学生からの意見に基づき第二次指導案を授業外学習で書き直し提出する。(目標(2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>期末試験：試験期間中に実施</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>期末試験の成績30%、指導案の作成40%、模擬授業の実施30%によって評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントを記載して返却する。</li> <li>・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</li> <li>・答案例を配布する。</li> </ul>

<p>時間外の学習について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、講義する内容について事前に教科書のページ数等を指定するので、入念に予習し、不明な点等を明確にしておくこと。特に、指導案作成においては十分な教材研究を実施すること。</p> <p>事後学習：自分、あるいは学友が実施した模擬授業について、整理し、自らの意見をまとめておく。</p>
<p>テキスト</p>	<p>『2011年度改訂版教員養成課程小学校音楽教育法』(教育芸術社)</p> <p>『小学音楽1～6 おんがくのおくりもの』 著作者：三善晃(教育出版株式会社)</p> <p>『小学校学習指導要領 解説—音楽編—』 著作権所有・文部科学省発行所・教育芸術社</p>
<p>参考書・参考資料等</p>	<p>『小学校新学習指導要領の展開』 著者：佐藤日呂志・坪能由紀子 出版社：明治図書</p>
<p>担当者からのメッセージ</p>	<p>教具として、鍵盤ハーモニカ、ソプラノリコーダーを使用する。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>月曜日 13:00～14:30</p>